



2024年  
(令和6年)  
春号  
Vol.16

枚方市議会議員

# 奥野みか

すべての人々が、「今」を輝いて  
生きていける社会をつくる

## ●奥野みかの視点(全員協議会)

今号では、移転条例の否決など全くなかったかのような姿勢で、市役所庁舎の⑤街区移転を前提とする「枚方市駅周辺再整備基本計画(改訂版)」を進めようとする市の問題点等を明らかにするとともに、私のこれまでの主張をもとに「対案」を示しています。



## 奥野みかの視点(2月21日 全員協議会) ~その「投資」は真に必要な合理的なものであるのか~

### 過ちを改めようとしなことが本当の過ちである

能登半島地震という大規模な災害が発生しました。次の「被災地、被災者」は自分たちかもしれないという危機感を持ち、近い将来、確実に発生すると予測されている南海・東南海地震への備え等、防災力のさらなる向上が求められています。そのような中、市が計画している新庁舎建設や④⑤街区の再整備事業が、真に必要な合理的なものであるのか、100年先の未来を見据えた「投資」に値する適切なものであるのか、適切なリスク評価は行われているのかを改めて確認しましたが、その答えはすべてが「ちぐはぐ」でした。

それは、理由や根拠もあいまいな「はじめにあった結論」に固執したからだと考えます。新庁舎の⑤街区移転が、その中核をなすものです。④街区に広大な市有地があるのに売却(定期借地という話も!)を想定し、わざわざ費用を負担して大阪府の土地を取得し、そこに市役所の新庁舎を移転建設しなければならぬのか等、結局、その合理性や有益性の説明ができていないとは思えません。



### 老朽化した市庁舎の建替えは待たなし!!

民間活力の活用や「賑わい」創出による経済波及効果等という魔法のことばでまちづくりを語るのではなく、大規模災害に備えるまちをつくるということが本市の最優先課題であり、④街区でまず求められているのは、建物の耐震化・不燃化の確保のためにも、老朽化した危険公共建築物の解体・撤去です。

災害時に行政機能を最大限に発揮することのできる新庁舎は、④街区の防災拠点機能を持った広大な公園・広場と隣接して一体的に整備されることが最も合理的です。枚方市が所有する④街区の広大な土地を民間開発事業者売却するのではなく、新庁舎や必要な公共施設の更新等、大規模災害への対応拠点の整備に活用し、平時においては、子どもを大切に、子育てのしやすいまちであることが実感できる機能と施設の集積に役立てることこそが、市の実現したい施策の具体化にもつながるのではないのでしょうか。

そして、⑤街区については、訓練施設や高度化された消防・救急機能などを備えた枚方消防署と、優れた機能を有した新しい枚方警察署が集積する地域づくりを連鎖的に進めるべきであると考えています。

### 防災拠点に分譲タワマン導入のリスク

④街区に賑わいと交流の拠点として整備しようとする民間複合施設等について、公募条件を考慮しても事業採算性の悪いものの提案はないであろうと、住宅機能(タワマン)や商業施設を整備する民間開発になることが明らかになってきています。行政が期待する機能が実現できないリスクが高いだけでなく、分譲タワマンという大規模区分所有建築物は、まちの将来に大きなリスクを抱えるのではないかと指摘されてきていますが、市有地を売却した民間開発事業者は④街区を委ねることに伴うリスク分析も対応策も用意されているとは思えません。

(※これまでの議会での主張等を裏面にまとめました。)



## 3月定例会議会(予算特別委員会) ~状況変化に応じた対応ができているのか~

2024年度の当初予算編成過程に発生した能登半島地震の被災状況を踏まえた緊急対応(状況変化に応じた対応)、逆に、緊急時の財政運営からの脱却(財政規律の回復)を意識した予算編成についての考え方を問いました。



個別課題では、寄附金を原資とすることも「夢基金」を子どもたちの2回目(市負担)の万博入場料の財源とすることの妥当性や小学校給食無償化等について質問しました。



水道施設・管路の耐震化を加速度的に進めなければならない水道事業会計や、閉棟を選択せざるを得ない危機的状況にある病院事業会計に対しては、一般会計(税)からの基準を超える緊急の財政的支援等を求めました。



### 奥野みか ホームページ・フェイスブック

~皆さまのご意見・ご要望もお聞かせください~

<https://okuno-mika.com>

<https://www.facebook.com/mika.okuno.338>

